

編集方針

大塚製薬 環境社会報告書の編集方針は、「情報の正確さ」「わかりやすさ」です。具体的な数値目標を設定して実行し、その推移を追っているものを記載することを原則としています。

今年度より、「サイトレポート」に赤穂研究所、大津栄養製品研究所、藤井記念研究所の3研究所、「連結対象企業の取り組み」に株式会社大塚製薬工場、大鵬薬品工業株式会社、大塚ペパレジ株式会社、大塚テクノ株式会社、イーエヌ大塚製薬株式会社、大塚倉庫株式会社、大塚包装工業株式会社の情報を掲載し、環境影響範囲を拡大しました。

テーマは継続して「環境の学校」です。

今後も、環境問題や社会活動について、まず私たち自身が「学ぶ」という意識のもとに行動してまいります。

対象組織

この環境社会報告書は、2007年度における大塚製薬株式会社の活動を掲載しています。対象となる事業場は、大塚製薬株式会社の医療関連事業と消費者関連事業の主要工場である6工場と研究所および本社、事業所を含む販売事業所です。（報告書中の6事業場とは、徳島工場、徳島第二工場、徳島ワジキ工場、徳島板野工場、佐賀工場、高崎工場と徳島研究所、佐賀栄養製品研究所を指します）

また、連結対象企業として、株式会社大塚製薬工場、大鵬薬品工業株式会社、大塚ペパレジ株式会社、大塚テクノ株式会社、イーエヌ大塚製薬株式会社、大塚倉庫株式会社、大塚包装工業株式会社の7社を含みます。

対象期間

データは2007年4月1日から2008年3月31日の実績です。

なお、活動の記載については直近のものを含みます。

発行時期

2008年9月

次回発行は2009年9月の予定です。

※この報告書は、環境省「環境報告書ガイドライン2007年版」、「環境会計ガイドライン2005年版」および、GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3版」を参考にしています。

※活動の内容や報告書の質を高めるために参考とさせていただきますので、みなさまの報告書に対するご意見・ご感想を業務部環境担当までお寄せください。

目次

環境宣言、会社概要	2
編集方針	3
ごあいさつ	4-5
企業理念、環境基本理念	5
コンプライアンス、リスクマネジメント	6-7
ハイライト	8-9



社会的パフォーマンス

■ お客さまとのコミュニケーション	10-11
■ 社員とのかかわり	12-13
■ 地域とのかかわり	14
■ グリーン購入・グリーン調達	15
■ 社会とのコミュニケーション	16-17



環境マネジメント

■ 環境マネジメントシステム	18-19
■ 環境目標	20-21



環境パフォーマンス

■ 環境負荷の概要	22-23
■ 地球温暖化防止、省エネルギー	24-25
■ 省資源、廃棄物の排出抑制	26-27
■ 化学物質の管理	28-29
■ 大気・水系への排出抑制	29
■ 環境会計	30
■ 環境関連法令などへの対応	31
■ オフィスの取り組み	32-33
■ 製品・技術開発	34
■ 物流	35
■ 業界団体を通じての3R推進活動	36
■ サイトレポート	37-40
■ 連結対象企業の取り組み	41-42

編集後記	43
------	----